

平成 30 年 3 月 15 日(木)日本獣医師会経由で、国立感染症研究所 森川茂獣医科部長から「動物のSFTS発症と獣医師のリスクに関して」次のとおり情報提供がありました。

ー動物の SFTS 発症と獣医師のリスク等に関してー

イヌの症例は 1 症例(徳島県、回復)以外には発生していません(このイヌの症例から飼い主が SFTS に感染しています。咬傷はないのでおそらく唾液、体液、尿、便などとの接触によると思われます。一方、ネコは昨日も確定診断された症例があり、これまで 11 症例が確定診断されました。8 頭が死亡しています(来院後 2～6 日で死亡する症例が多いです)。

ネコでは、黄疸が顕著な症例もあります。

WBC 800～4200

PLT 0～4

ALT >50～250

AST >50～150

T-Bil normal ～5

CK >1000

のケースが多いようですが、1 症例だけ軽症例がありました(血小板減少の程度が弱く、早期に回復)。死亡症例では、消化器症状が非常に強く、実験感染での死亡例では胃から直腸まで潰瘍と全面出血が認められています。

また、唾液、涙、体液、尿、便にもウイルスが排泄され、血液中のウイルス量もヒトの患者同様に 10^4 から 10^8 / mL ほどの高いウイルス血症を呈します。死亡例でも回復例でも、かなり早期に IgM 抗体が検出され、IgG 抗体もついで検出されます。

現在、検査対象のネコは以下の症状を示した場合ですが、すべてを満たしていなくても受け付けています。

発熱(39℃以上)

白血球減少症(5000/ μ l 以下)

血小板減少症($10 \times 10^4/\mu\text{l}$ 以下) 入院を要するほど重症である(自力採餌困難等)

既存のウイルス(パルボウイルスなど)の感染が否定される

現在、検査は以下の 4 箇所を受け付けております。

検査は、RT-PCR(現在、4 種類の RT-PCR を実施)、ELISA による IgM、IgG 抗体の検出を実施しています(どこに依頼されても全て同じ検査です。ELISA 抗原は私が調整したものを配布していますので、検査の感度もどこでも同じです)。

検査対応機関と連絡先:

国立感染症研究所 獣医科学部 森川 茂(info@nih.go.jp ヘメール、あるいは morikawa@nih.go.jp)

山口大学 共同獣医学部 獣医微生物学教室 前田健教授 <kmaeda@yamaguchi-

u.ac.jp>鹿児島大学 共同獣医学部越境性動物疾病制御研究センター 松鶴彩先生

<matsu@vet.kagoshima-u.ac.jp>宮崎大学 農学部獣医学科 獣医外科学研究室 桐

野有美先生 <kirinoyumi@cc.miyazaki-u.ac.jp>

+++++

国立感染症研究所 獣医科学部長

(岐阜大学大学院連合獣医学研究科 客員教授)

(東京大学大学院農学生命科学研究科 連携教授)

森川 茂

〒162-8640

東京都新宿区戸山 1-23-1

E-mail: morikawa@nih.go.jp